

D-72-管調資-No.4

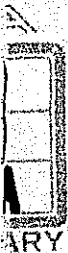
昭和46年2月初版  
昭和47年12月改訂版

# 各国事情のしおり

—— タイ 編 ——

1972・12

海外技術協力事業団



国際協力事業団

受入 月日	'87. 1. 26	122
登録 No.	08229	20
		EXA



## は し が き

本小冊子は、技術協力のために海外に派遣される専門家のオリエンテーション用資料として、事業団海外事務所からの調査報告等をもとに作成したものである。

本小冊子は、事業団海外事務所の役割（専門家派遣に係る業務の範囲）、専門家に対する要望事項について記すとともに、専門家の日常生活に密着した任国事情、特に衣食住、気候、教育、公共施設、治安等を重点に作成した。各項目にふれる前に、タイ国に対する我が国の技術協力の推移について、ごく簡単に述べておきたい。

まづタイ国からの研修員の受入れ及び同国への専門家派遣は、その数において他の諸国に比して圧倒的に多く、受入数は47年3月末現在2,030名にのぼり、また派遣数も903名に達している。

専門家の派遣分野も多岐にわたっており、厚生、郵政、農業、水産、建設、重工業、鉱業、軽工業、公益事業、運輸、行政、教育、化学工業等に対する協力が行われてきた。ここに専門家派遣の事例を二、三挙げると次の通りである。

①タイ国がかねてより力を注いでいる水産資源開発をより効果的に遂行するためには、水産学上のデータの完備が急務であり、その為早急に水産統計マンの育成を図るべく、水産統計専門家を6ヶ月間現地に派遣したのをはじめとして、その後も引き続き協力を行っている。

②タイ国は、タイシルクの輸出振興を図るため蚕品種の改良および桑栽培の育成を目的として、我が国へ専門家の派遣を要請してきたので、昭和40年、桑栽培、蚕品種改良専門家を各1名派遣

し、タイ国蚕業試験場に2ケ年に亘り勤務せしめた。これを契機として、タイ国は養蚕開発計画をより積極的に推進するため、改めて我が国の協力を要請、これにもとずき調査団を二度に亘り派遣し、タイ東北部のコーラートに中央研究訓練センターを設置し、技術の開発及び技術者の教育訓練を行い順次普及活動に当るべく、昭和44年8月、3ケ年の期間で専門家を5名派遣し協力を続けている。

③タイ国政府は水力発電開発事業にも力を注いでおり、我が国は、昭和33年メコン河下流域開発基礎調査に参加して以来、度々タイ国及びメコン河沿岸諸国に調査団を派遣し、電力開発を主体とする諸調査を行ってきた。昭和40年には、バンコクの東北のナムサイヤイ流域の詳細な踏査、翌41年には、タイ東北地方の急激な電力需要の伸びに対処するためのナムボン上流域電源開発計画の予備調査、40年に実施した上述、ナムサイヤイ基礎調査にもとづくフィジビリティ調査（昭和43年）等を実施している。また専門家の派遣も行われており、例えば昭和38年タイ国政府国家動力庁に3ケ年に亘り電力開発計画専門家を派遣し、電源開発計画にかかる測量、ボーリング、実施設計等の企画、指導、監督を行われしめ、具体的にはナム・ブン及びナム・ボン両ダム建設の企画指導、ヤンヒーKaen, Grieg 地点の電源開発工事等に参画せしめ、昭和41年にはその後任者を派遣している。またバンコクを含む37県への電力供給、電力設備調査・建設を担当している当時のヤンヒー電力庁（公社）の要請により、昭和41年メコン河開発計画に協力するため、総合開発計画プランナー、地質専門家、ダム設計専門家を派遣し、昭和43年にはこれらに加えて測量専門家を派遣し、各分野での調査、指導を行い計画立案に当たっている。

④タイ国政府は地方都市水道の拡張、改善および新設工事を積極的にすすめるべく、コーラート等10都市に対する調査、計画立案、実施設計について我が国の協力を求めたので、昭和43年5名の専門家を派遣した。

以上は個別専門家派遣の場合であるが、この他我が国は特定のプロジェクト実施についても協力を行っている。即ち、タイ道路建設技術訓練センター、タイ電気通信技術訓練センター、タイヴィールスセンターの設置、協力等である。まづタイ道路センターについていえば、タイ国の支線道路の開発がきわめて遅れている現状に鑑み、各地に道路建設のパイロット・プールを設立し、道路建設を促進することとなり、我が国に対し南タイ開発の一環としてのパイロット・プール設置を求めてきたので、昭和38年及び39年の二度に亘り予備調査と実施調査を行った結果、バンコック南方約700キロに在るソクラ市にセンターを設備することとし、昭和39年11月協定が成立した。昭和40年2月に至り我が国は10名の要員を派遣するとともに、1億5千万円にのぼるブルドーザー、モータグレーダー、ダンプトラック等の機材を供与し、協力を開始した。本センターの目的は、サムロン～ナタウィー間52キロの道路を建設しつつ、道路の設計、建設、維持ならびに道路建設用機械と操作、修理、整備に関する訓練をおこない、タイ人技術者を養成することであった。道路の建設と併行しての訓練には種々の困難が伴ったが、重機オペレーター、フィッター、ダンプトラック運転者等数十名に訓練を与えるとともに、43年10月末には上述52キロの工事を全て完了し、11月14日に日・タイ高官の列席のもと盛大な開通式が行われた。

次にタイ電気通信訓練センターについて云えば、電気通信施設

の設置、操作及び保守分野でのタイ人技術者を養成することを目的としており、昭和34年8月派遣した実施調査団によるタイ側との交渉及び調査に基き翌35年8月協定が成立、電話交換関係機器等6千8百万円にのぼる機材の供与、7名の要員派遣をもってはじめられた。訓練は普通科と専修科に分かれ、電話交換、搬送電話、マイクロウェーブ、電信、テレビ放送、ラジオ放送の部門でおこなわれたが、当初1年コースであった普通課は、38年には Technical Institute に準ずるものとして3ケ年コースに改められ、専修科についても3ケ月のコースが4ケ月コースに改められた。本センターに係る当初の協定期間は昭和38年8月までであったがタイ側の要望に応じて2ケ年間延長され、また延長期間終了後も引続き協力することとなり、40年7月には6名の専門家を派遣し訓練を続けた。卒業生の就職状況は極めて良好で、特に3ケ年コースになってからは、タイ電話公社、郵政庁、国鉄、タイTV等毎年100%の就職率をあげており、かかる成果に鑑み昭和44年には従来の3ケ年コースを5年制に改めるとともに、ノンブリ電気通信大学に昇格、続いて45年7月には他の三工科大学との合併が実現し、モンクット王工科大学を発足せしめるに至った。

医療協力関係の一例としてタイヴィールスセンターの設置協力であるが、これはタイ国のヴィールス性疾患による死亡率が極めて高く、これに対する医療施設の普及、環境衛生の改善が急務とされたため我が国が技術協力を行うこととなったものであり、ヴィールス病の診断、研究のために昭和36年11月センター設立協定が成立した。これに基き、昭和37年9月以来10数名の専門家を派遣するとともに、電子顕微鏡、血清等研究機器、組織培養法研究

機器、動物実験機器等を供与した。成果としても見るべきものが多く、依頼される検査も年間4,000件以上にも及び、狂犬病ワクチン及びデング・ウィールスI型のワクチン試作にも成功している。本センターは昭和39年11月に当初協力期間を終了したが、これを1年半延長し41年5月までとするとともに、その後も専門家を常時2～3名ずつ派遣、協力を続けている。

この他医療協力関係として、タイ政府が昭和41年に承認したタイ国立ガンセンター設立5ケ年計画（昭和42年～47年）にもとづく国立ガンセンター設置に対する協力として、我が国専門家による診療活動指導、タイ関係者の受入、X線装置、自動現像装置、ガストロカメラ等診断に必要な諸機器の供与、タイ国における漢薬、インド薬の科学的研究・協力としての専門家の派遣等、ラマチポディ医科大学の眼科部門に対する協力、ポリオ免疫計画実施のための協力として、生ワクチンの供与及びそれに伴い投与指導検査採取等の実施等がある。

以上の如くタイ国に対する協力はその形態、分野において多種多様に亘っているが、この他にも鉱物資源開発調査、農業開発調査、水産資源開発調査、橋梁建設、港湾建設計画等の調査団の派遣、計画の立案、助言等の協力もおこなっている。

本小冊子は、各項目について首都バンコックの事情を中心に作成したが、更に地方の実情等も適時調査のうえ、より内容の充実したものとしてゆきたい。従って、決して万全のものとはいえないが、同国に赴任する専門家の何らかの参考として役立てば幸いである。

昭和47年12月

海外技術協力事業団

理事長 田付景一



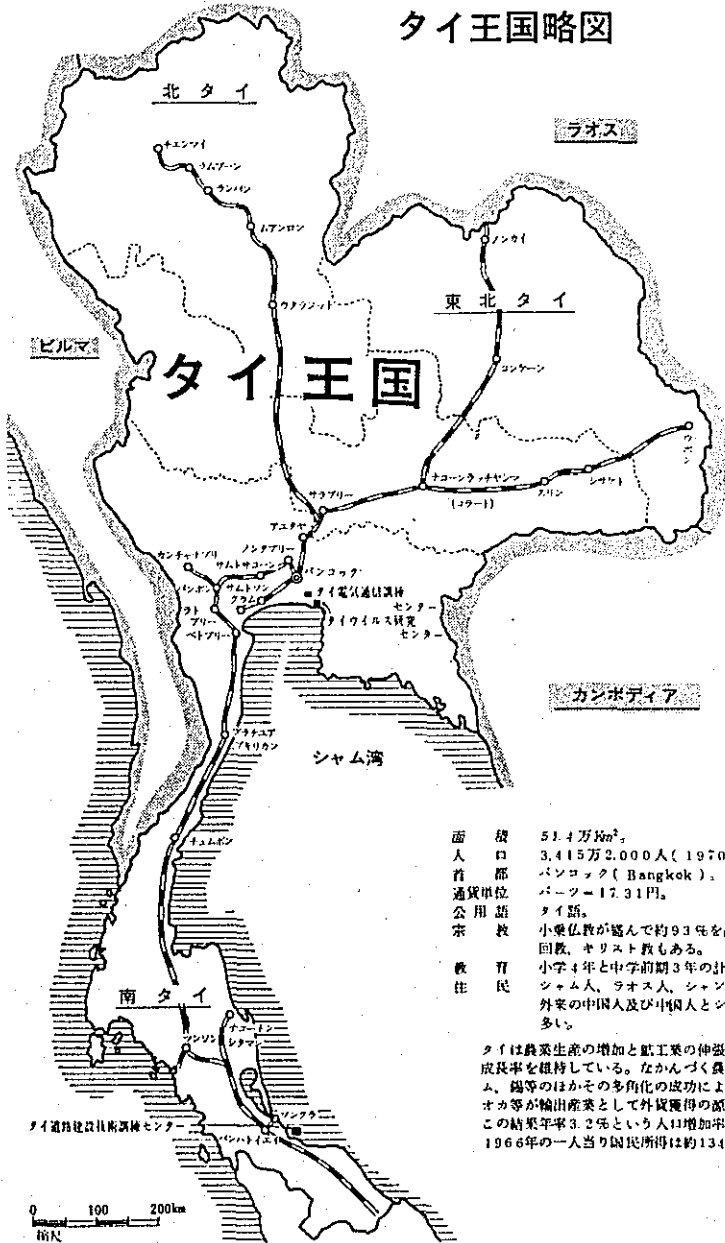


## 目 次

I	海外技術協力事業団海外事務所について	2
1.	海外事務所の役割	2
2.	専門家に対する要望事項	5
II	任国事情	8
1.	住宅（住宅事情、家賃、ホテル、什器・備品）	8
2.	食品（食料事情、価格、外食）	9
3.	衣類、日用品（衣料事情、日用品）	13
4.	使用人	13
5.	医療（医療事情、医薬品、疾病の種類、健康管理上の注意）	14
6.	子弟の教育機関（教育機関、授業料、通学方法）	15
7.	娯楽設備（保養地等、余暇、日本人クラブ等）	16
8.	電力	17
9.	交通（交通事情、レンタカー、自動車購入、運転免許、ガソリン代）	17
10.	為替（相場、対日送金、滞在費受取方法）	21
11.	出入国管理（税関検査、外人登録、ビザ手続）	21
12.	便宜供与（種類、カウンターパート、免税特権）	22
13.	通信・運輸（郵便事情、運送）	24
14.	言語（英語等の普及度、語学学習）	26

15. 気候 .....	26
16. 治安（一般情勢、夜間外出、緊急時連絡方法）.....	26
17. その他（対日感情、新聞・雑誌、風俗・習慣、 美容、買物） .....	28
Ⅲ 同国に対する我国の技術協力実績 .....	31
Ⅳ 海外事務所等連絡先 .....	40
Ⅴ 付録(1) Privileges Accorded To Foreign Experts ( D.T.E.C. Thailand ) 付録(2) タイの一般事情を知るために（資料紹介）	

# タイ王国略図



面積	51.4万km <sup>2</sup> 。
人口	3,415万2,000人(1970年)。
首都	バンコック (Bangkok)。
通貨単位	バーツ=17.31円。
公用語	タイ語。
宗教	小乗仏教が盛んで約93%を占める。回教、キリスト教もある。
教育	小学4年と中学前期3年の計7年が義務教育。
住民	シャム人、ラオス人、シャム人、カレン人、外來の中国人及び中国人とシャム人の混血が多い。

タイは農業生産の増加と鉱工業の伸張により高い経済成長率を維持している。なかんづく農業生産は米、ゴム、錫等のほかその多角化の成功によりメーズ、タピオカ等が輸出産業として外貨獲得の源泉となっている。この結果年率3.2%という人口増加率にもかかわらず1966年の一人当り国民所得は約134ドルに達した。

# I 海外技術協力事業団海外事務所について

## 1. 海外事務所の役割

### (1) 赴任当初

#### イ) 専門家

- A) 空港出迎へ
- B) ホテルの予約
- C) 大使館および関係者への紹介
- D) 勤務先への案内
- E) 希望により住宅周旋屋を紹介、必要に応じ賃貸契約に立会い、助言を与える。
- F) 携行機材の引取りについては当事務所が通関に関する大使館名における口上書を作成する。引取り業務は専門家の勤務先が D T E C の協力のもとに直接行う。機材の Consignee はタイ政府 D T E C である関係上当事務所が直接引取りは出来ない。
- G) 私物、アナカン等の引取りについても前記 F と同様当事務所が D T E C 宛無税通関に関する大使館口上書を作成する。D T E C は税関宛に専門家の私物である証明書を発行する。この証明書に基づき Customs Broker に委任するか、専門家自身が直接行いバンコク事務所は引取りは行なっていない。日本語の出来る Customs Broker を紹介することは出来る。家財の輸送方法等については、13. 通信運輸(四) 運送の項を熟読されたい。
- H) タイ国の社会情勢等生活上必要なオリエンテーション。

ロ) 家 族

家族が専門家の同伴ではなく呼寄せにより後に来タイする場合、家族の出迎へは原則として専門家が行っている。但し専門家より特に依頼があれば可能な限りこれを行う。

ハ) 調査団については以下の業務を行なっている。

- A) タイ側と事前にスケジュール(案)の打合せおよび作成
- B) 空港出迎へ
- C) ホテルの予約
- D) 大使館およびタイ側関係者への紹介
- E) タイ側との最終スケジュール作成の際の立会いおよび助言
- F) 会議等開催の準備
- G) 必要により現地調査に同行
- H) 必要によりタイ側に提出する中間報告書作成に協力

(2) 赴 任 中

- A) 本部へ送付する業務・報告書、事務連絡の写を各一部提出してもらう。
- B) 専門家の一時帰国申請(公費私費を問わず)は事務所を通して行う。
- C) 現地業務費の増額申請について  
申請書は事務所に提出してもらい審査の上、妥当であれば権限の範囲内で仮承認する。
- D) 住宅調査・共済給付請求書の確認
- E) 専門家勤務先への定期的訪問は在タイの専門家数が多数のため現状では物理的に不可能で行なっていない。しかし必要に応じ適宜訪問を行う。(その際勤務先の

責任者と面会し専門家の活動の Evaluation を行うと共に専門家の希望、問題点を聴取しタイ側責任者に伝えている。

F) 緊急時の治安対策及び連絡

1971年11月17日の政変により革命政権が誕生し議会の解散、憲法の停止と共にタイ国全土にわたり戒厳令がしかれ、現在も戒厳令下にあるが、北部、南部、東北部の一部を除いては治安は確立しているので、緊急時の避難等は大使館を含め民間商社等も現在のところ全く考えていない。但し専門家の横の連絡を密にするため、赴任中専門家リスト(氏名・勤務先・期間・電話を含む)を当事務所が作成し随時専門家に配付している。そのため、住所変更の際は必ず報告してもらう。

G) ビザ更新については当事務所が大使館名における口上書を D T E C宛作成提出し、D T E Cが専門家に代って移民局に手続きを行ない更新される。(但し1ヶ月位は掛る)渡航先追加は任務終了後帰国時の近隣諸国(ラオス・カンボディア・ヴェトナム・ビルマ・マレーシア・シンガポール・台湾・香港)の立寄り以外は認められない。但しラオス・カンボディア・ヴェトナムのインドシナ三国は戦乱中であるので現在のところ不可。

H) 携行機材・機材供与等本部申請する際の助言を行うと共に事務所と打合わせの上本部へ提出してもらう。

I) 専門家のカウンターパートの日本での研修計画立案に

対する助言。

- J) 必要に応じ病氣時における医者・病院の紹介、特に当地に医療専門家が常時数名派遣されているので、これらの専門家に助言を求める為に紹介する。
- K) その他必要に応じ公私を問わず助言を与える。専門家は遠慮なく当事務所に相談されることを望む。

## 2. 海外事務所からの専門家に対する要望事項

### (1) 一般的要望事項

- A) 事務所と常に密接な連絡を保つこと
- B) 日本人として常識ある言動をとること。
- C) 出稼ぎ根性をやめ身銭を使う位の気持をもつこと。
- D) タイ人は食事に招待することが好きな国民である。招かれたら三度に一度位はお返しの招待をすること。
- E) タイ人は非常にプライドの高い国民である。決して指導者意識をもたないこと。対等の立場で問題を一緒に考えてやる気持が絶対に必要。
- F) 特に王制、政治、仏教に対して批判的な発言はしないこと。
- G) 公私生活上腹の立つことが非常に多いが決して腹を立てないこと。健康上もよろしくない。
- H) 公衆の面前で大声で人を罵倒しないこと。
- I) 「意おのずから通ずる」誠意をもって接することが肝要。
- J) 賭事（マージャン、トランプ）は御法度。事前に警察の許可を必要。
- K) 優秀な技術者であると同時に人格・見識を備えた人間

であること。

- L) 専門家の手引を熟読して、権利ばかり主張せず先づ第一に義務を果たすこと。
- M) 身なり（整髪・服装）を常時こざっぱりしておくこと。
- N) タイ人を含め外人との食事の際、大声で話したり、音を立てて食べないこと。（特にスープを飲む時に注意）
- O) 深酒はせぬこと。
- P) 日本人とばかり交際せず、タイ人、第三人との交際に務めること。これにより仕事上情報収集などに大いに役立つ。
- Q) センター・プロジェクト等集団で派遣される場合、日本での出身機関が同一でない所謂寄合所帯の場合にはチームワークが兎角問題になる。要員・専門家は理事長・リーダーなりの指示に従い統一ある行動をとる様充分に心掛けられたい。
- R) 上記Q)の場合、特に夫人間のトラブルが起りがちである。専門家は妻のコントロールをよくし、いやしくも男の仕事に口を出させぬ様毅然とした態度をとること。
- S) 又、夫人の場合、余暇が充分にあるためとかく余計なことを考えがちである。そのためタイ国事情を勉強するなり、切手収集、刺しゅう、英会話、読書など、何らかの趣味をもつこと。
- T) 他人の生活には干渉しないこと。
- U) 専門家は赴任中の仕事をより効果的に行うため、またタイ国民をより理解するためにも、タイ国事情（歴史、



文化、経済、社会等)は赴任前に勉強しておく必要がある。

(2) 語学研修上の注意

英語の研修が絶対に必要である。政府および関係機関の中級以上は欧米で留学したものがかなり多く、立派な英語を駆使している。英語を話すことは最も重要であるが、簡単な英語の報告書を書ける位の力がないと困る。会話と共に英語報告書作成についても研修が必要である。タイ語を事前に研修する絶体的必要性はない。当地にタイ語塾がたくさんあり、赴任後いくらでも勉強出来る。

## II. 任 国 事 情

### 1. 住 宅

#### (イ) 住宅事情

① エージェントの有無

エージェントは多数有る（日本人が勤務しているエージェントもある）。

② 入手の難易度

入手は困難でない。

③ 賃貸方法

月払い。但し、家主により1ヶ月分の敷金を必要とする場合がある。

#### (ロ) 家 賃

アパートの方が独立家屋よりは安い。

① 独身者（1ベッドルーム） 3,000～4,500 パーツ

② 家族2人（2ベッドルーム） 3,500～4,500 パーツ

③ 家族4人（3～4ベッドルーム） 4,500～6,500 パーツ

（註：一般的にはベッド、洋服ダンス、応接セット、冷蔵庫、ガスレンジ等の Hard Furniture は付いている。クーラーも一個は付いているが、それ以上は別途使用料を払う。

（月約300～400 パーツ）

（レートについては10. 為替の項参照）

#### (ハ) ホ テ ル

① 1日1人部屋代のみ100～250パーツ、当地には食費込みのホテルはない。1ヶ月位の滞在の場合は下宿屋、マンションに居住した方が便利である。例えば、そうじ代、

せんとく代、電気代、電話代込みの食事朝夕二食つきで、  
エアコン完備風呂付の下宿屋がある。

料金1ヶ月2,600～3,500バーツ位。

- ② 長期ホテル滞在の場合、月極めで部屋代のみ4,500バーツ位。

上記①の下宿屋を利用した方が経済的である。

(⇒) 什器・備品

- ① 食器類(日本的食器、例えばお茶碗、おはし等)購入可能。

但し日本の2倍～3倍の価格

## 2. 食品

(1) 食料事情

- ① 一般的食料事情

特に不足のものはなし。

- ② 日本食品の入手情況

日本食品入手可能。但し日本の価格の2倍～4倍。

- ③ 水、燃料等

水..... 飲料水購入1ヶ月約100バーツ

水道料金 1ヶ月約 50バーツ

燃料..... プロパンガス使用(大)約200バーツ

調理器具..... 購入可能。さしみ包丁携行

電気釜..... 約300バーツ

トースター..... 約250バーツ

鍋(日本製)..... 約70～150バーツ

“(タイ製)..... 約15～30バーツ

調味料..... 購入可能

(輸入品にて高価)

④ 日本食レストランの有無

日本食レストラン10数軒あり。

(ロ) 価格 (多少の変動あり) (1パーツ=17.31円)

品名	単位	価格 (パーツ)
米	1 kg	約 3.5 パーツ (日本米... 1kg...12パーツ)
パン	1 斤	約 5 " (輸入品 1kg.....9パーツ)
小麦粉	1 kg	約 5 "
肉類		
豚肉	1 kg	約 35 パーツ
牛肉	1 kg	約 50 "
鶏肉	1 羽	約 25 " (輸入品...45パーツ)
ハム	100 g	約 9 "
ウインナー	500 g	35 "
魚類		
かつお	1 匹	約 10 パーツ
かれい	1 kg	約 5 "
まぐろ	1 kg	約 25~30 パーツ (現地もの)
あじ	1 kg	約 8 パーツ
たい(小)	1 kg	約 15 "
貝	1 kg	約 2 "
いか	1 kg	約 10 "
えび(小)	1 kg	約 38 "
えび(大)	1 kg	約 50 "
いせえび	1 匹	約 50 "
さば	1 匹	約 50 " (日本より輸入)

品名	単位	価格 (パーツ)
あじ干物(小)	1枚	約 8 パーツ (日本より輸入)
しらす	100 g	約 10 " ( " )
たらこ	2ケ	約 24 " ( " )
調味料		
油	1本	約 25 パーツ (輸入品)
タイ油	1本	約 10 "
味噌	500 g	約 10 " (輸入品)
醤油	18 ℓ	約 50 " ( " )
ソース(中)	1本	約 15 " ( " )
ケチャップ(中)	1本	約 15 " ( " )
味の素	1 kg	約 40 "
さとう	1 kg	約 5 "
その他		
卵	1ダース	約 10 パーツ
ミルク(大)	1ケ	約 7.5 "
ジャム	1ケ	約 28 " (輸入品)
バター	半ポンド	約 20 " ( " )
なっとう	1袋	約 5 " ( " )
タイ製なっとう	1袋	約 3 "
野菜		
じゃがいも	1 kg	約 10 "
人参	1本	約 2 "
椎茸	1 kg	約 450~500 パーツ
さつま芋	1 kg	約 3 パーツ
大根	1本	約 1 "

品名	単位	価格 (パーツ)
白菜(小)	1ケ	約 4 パーツ
キャベツ(小)	1ケ	約 4.5 "
きゅうり	1kg	約 3 "
ほうれん草	100 g	約 3 "
さやいんげん	100 g	約 2 "
さやえんどう	100 g	約 2 "
ごぼう	1本	約 15 " (日本より輸入)
山芋	1本	約 40 " ( " )
果物		
バナナ	12本	約 5~6 パーツ
パイナップル	1ケ	約 6 "
みかん	1kg	約 3~15 " (季節により異なる)
マンゴスチン	1kg	約 4~15 " ( " )
ぶどう	1kg	約 14~18 " ( " )
マンゴ	1ケ	約 4~5 "
ザボン	1ケ	約 5~7 "
リンゴ	1ケ	約 10 "
パパイヤ	1ケ	約 3~5 "
スイカ	1ケ	約 10 "

## (ハ) 外食

日本料理店は中華料理、タイ料理店に比べ2~3倍は高い。

日本料理店 (C級) 昼食定食 約 30~40 パーツ

天ぷらそば 約 20 "

かつどん 約 20 "

味噌汁 約 3 "

中華・タイ料理店（C級）	焼めし	約 10 パーツ
	ラーメン	約 5 "
	中華丼	約 10 "

### 3. 衣類、日用品

#### (イ) 衣料事情

##### ① 一般的衣料事情

布地は豊富。仕立ては日本より安い。既製服は高価。特に不足の品なし（但し下着、ブラウス、ソックス等日本製品は日本価格の2倍～3倍）

##### ② 必要とする衣類

セーター 1～2枚

夏服……汗をかくので数多く必要（普段）

夏物和服1揃い 1～2着（訪問着）

黒色の背広

##### ③ 携行すべきもの

夫人の場合 和服（訪問着）

パーティー用ビーズバッグ（入手可能但し高価）

#### (ロ) 日用品

### 4. 使用人

#### ① 職業紹介所は有り

#### ② 具体的雇用方法

職業紹介所は上記①の通りであるが、一般外人は利用しない。

使用人を雇用する場合は前任者の使用人を引継ぎ雇用するか、又は日本人会会報を通じ帰国する日本人の使用人の紹介をうける方法が最も信用出来る。

### ③ 給与月額

当国には最低賃金制度が確立されていない。

通常女中の場合 600～800 バーツ

運転手 " 1,000～1,200 バーツ

庭師 " 500～600 バーツ

コック " 800～1,000 バーツ

守衛 " 600～700 バーツ

年末にボーナス1ヶ月分別途支給する。

### ④ なお、最低必要とする使用人

女中1名、通学する子供がある場合は学校送迎等に運転手が必要。

### ⑤ 雇用、解雇に際し特に注意すべき事項

素行を十分に前雇用者よりきくこと。

3ヶ月以上勤務した使用人を解雇する時は1ヶ月分の退職手当支給が必要。

健康状態を確かめることが必要。特に幼児のある場合結核等感染する場合もあると聞く。

## 5. 医療

### (1) 医療事情

#### ① 医療施設

バンコックおよび主要都市においては、医療施設は発達しており心配はない。但し手術等はバンコックの方が安全である。

#### ② 日本人医師の有無

日本人医師は多数居る（内科、産婦人科、歯科）

その外に日本に留学したタイおよび中国人で日本語を解



する医者が多数居る。

③ 出産の安全性  
安全。

(甲) 医薬品

医薬品は日本製、ドイツ、スイス、アメリカ製各国のものがあり不足はないが、赴任当初用として家庭薬としての風邪薬、腹薬、目薬等を持参する方が良い。

(乙) 疾病の種類

- ① タイ出血熱、日本脳炎、肝炎、マラリヤ(特に地方)、コレラ、赤痢等
- ② 日本出発前に特にしなければならない予防注射  
コレラ、腸チブス、破傷風(特に子供は必ず受けさせること)、種痘

(丙) 健康管理上の注意

暴飲暴食は慎むこと。睡眠は充分とること。適当に運動(ゴルフ、水泳)をすること。腹を立てぬこと。

6. 子弟の教育機関

(1) 通常専門家の子弟が利用している教育機関の実例

バンコックには日本大使館附属として幼稚園、小学校、中学校が設立されている。タイ国の法律上は正式に許可されてはいないが、日本本土の学校と遜色ない程に施設、内容が充実している。先生の多数は東京の学芸大学附属小学校から派遣されて居り、規律ある教育が行なわれている。日本人の子弟の殆んどは通常日本人学校に通学している。

その外に国際学校がある。バンコックに日本人高等学校がない為高校生は国際学校に通っている。地方在住の場合は

タイ人学校を利用せねばならない。

(ロ) 授業料

中学校	600	バーツ ( P T A 会費等含む )
小学校	395	バーツ (       "       "       )
幼稚園	385	バーツ (       "       "       )
国際学校	約 10,000	バーツ ( 年間 2 学期制 )

(ハ) 通学方法

一定区域にはスクールバスの便があるが、それ以外のものは家庭が自家用車で送迎する。スクールバス1ヶ月の料金は120バーツ。

7. 娯楽設備

(イ) 保養地、ゴルフ、ボーリング、映画等

バンコック近辺に海水浴場 ( バンセン = バンコックより 80 km、パタヤ = 120 km、ホアヒン = 250 km )、国立自然公園、避暑地 ( カオヤイ = 220 km )、遺跡 ( アユタヤ = 80 km ) 等があり、いづれもアユタヤを除き一流のホテルがあり、週末家族連れでの保養が可能である。パブリックゴルフ場もバンコック周辺に4ヶ所ある。ボーリング場、映画もたくさんあり競馬なども盛んである。

(ロ) 通常の余暇の過ごし方

運動 ( 水泳、ゴルフ ) するなり名所遺跡巡りするのも楽しいものである。ゴルフについては、コロンボプラン専門家のコンペが毎月一回行なわれ、D T E C の係官と日本人専門家が楽しく一日を過すことは横の連絡を密にする上にも有意義であり且つ健康によい。

(イ) 日本人クラブ、スポーツクラブの有無、料金

日本人クラブも有り食堂も備えている。スポーツクラブ（ローヤルバンコッククラブ）もあるが審査がきびしく入会が非常に難しい。通常入会申込みしてからメンバーになるまでに約2年位掛る。メンバーシップ、フィーは年間2,000バーツ。

8. 電力

家庭用                    220Volt                    50cycl

工場動力用            380～400Volt            50cycl

9. 交通

(イ) 交通事情

① 一般交通機関

一般交通機関は鉄道を除いては自動車である。特に近年バスによる交通機関は非常に発達し、バンコックより主要地方都市への長距離バス便があり、値段も格安であるバンコック市内もバス便が網の様に発達している。市内の料金は距離に関係なく乗換えしなければ50サタンである。

タクシーハイヤーも無論利用出来るが、メーターがあってもメーター制でないので乗る前に料金交渉をしなければならないのでタイ語が分らないと「ボラレル」ので注意を要する。長期派遣者は自家用車なくしては生活は出来ない。

② 道路事情

道路事情も第一次、第二次経済開発計画実施中に整備され、主要幹線道路は舗装されており、1971年10月より

開始された第三次計画では地方道等支線道路整備に重点をおいているので、年々道路事情は改善されていくが、田舎では殆んど舗装されておらず、雨期などは自動車の往来が不可能になる。1971年末において国道ならびに主要地方道の総延長は17,105 kmで、このうち11,462 kmが全天候舗装である。第三次開発計画によると、この道路は1976年9月までには、さらに国道5,974 km、主要地方道7,467 kmを各々新設延長及び改良(全天候舗装)されることになっている。

③ 特に注意すべき交通法規

日本の交通法規を知っておれば問題はない。

当地では左側通行・右ハンドルで日本と同じである。最近では交通取締りがきびしく駐車違反、信号無視など摘発されるケースが多い。交通規則は何処の国へ行っても守らねばならない。専門家だからといって交通違反の特権免除はないから、ハンドルを握る場合は慎重にすること。

④ 交通事故の取扱い

交通事故に巻き込まれると十中八九如何に自分が正しくとも外国人の場合は加害者扱いにされる。

⑤ 事故補償

自動車保険に加入することは車を所有する第一条件である。A I U、日本、タイの保険会社がある。保険金は車の大小によって異なるが年間2,500～4,500 パーツ位である。

人を死亡させた場合の補償額は加害者の地位、経済能力で異なるが20,000～100,000 パーツ位である。

人身事故を起した場合、保釈金を払う迄は留置される。  
保釈金は事故の程度により異なるが、通常 5,000～50,000  
パーツと云われている。

その後両当事者間で話し合い示談で解決し、保釈金は後  
で返される。

(ロ) レンタカー

レンタカーのサービスあり。料金1ヶ月4,000パーツ位。

(ハ) 自動車の購入

① 購入方法、融資方法

当地には欧米のメーカーは無論のこと日本の各自動車メ  
ーカーの現地法人、支店、代理店があり、当地において  
好みの車を発注出来る。

日本で発注するよりも着任後発注した方が、通関、登録、  
サービスの点において便利である。融資については昭和  
44年12月5日付TBK-35総務部長通達により、当事  
務所は如何なる場合といえども融資の斡旋はしない。必  
要と思われる際は、必ず赴任前本部において融資の斡旋  
を受けること。赴任後当事務所に斡旋依頼に現われる専  
門家があるが、お断りしている。

② 車の値段(CIF、無税の場合、1972年9月現在)

例：トヨタクラウン2300CC

デラックス 約\$ 3,400(クーラー、FM付)

コロナマークII 2000CC 約\$ 2,800( " )

2300CC 約\$ 3,200( " )

コロナデラックス1600CC 約\$ 2,430( " )

日産セドリック2400CC

約\$ 3,000(クーラー別) クーラー約\$ 350

ブルーバード1400cc

約\$ 1,900 (クーラー別) クーラー約\$ 350

セドリック2000cc

約\$ 2,500 (クーラー別) クーラー約\$ 350

③ 免税輸入特権

輸入車については特権がある(厳密には免税ではない。)即ち、専門家が関税を払う建前になっており後でDTECが専門家に払戻す制度"on a reimbursement basis"である。この場合現地で車を発注すると受註会社が関税分を立替えてくれるので便利である)

④ 帰国時の売却方法、課税

売却する際は、購入後5年以内の場合にはモデル、走行距離により課税される。知人、会社等に売却出来る。困難はない。

(二) 運転免許

① 国際免許証の有効性

国際免許証は有効である。期間は発行後1年間であり、その後はタイの免許に切替える必要がある。タイ国より出張等により車で国外(マレーシア、シンガポール等)に出る場合は勿論、国際免許証が必要。当国で国際免許証への書換えは一日で出来る。

② 免許取得の方法、経費等

各地に自動車運転学校がある。警察の試験にパスしなければならない。試験内容は日本に比べ非常にやさしく、簡単な法規と運転技術だけである。

受験料は30バーツであり、自動車運転学校の一教程は約

800 パーツ位である。

(注) ガソリン代

スーパー	1 リットル	2.1 パーツ
レギュラー	"	1.91 "

10. 為 替

(イ) 相 場

公 定	U.S \$	20.825 パーツ位 (毎日変動あり)
実 勢	"	20.000 パーツ

(ロ) 対日送金

現地銀行を通じ送金出来る。但し1人1ヶ月 \$ 150 が限度であり、それ以上の場合は大蔵省の許可が必要であり、手続きは銀行が代行してくれる。

(ハ) 滞在費等の受取方法

当地には日本の三井銀行、東京銀行がそれぞれ支店をもち営業している。日本人は殆んどいずれかにタイ通貨口座を持ち日本よりの送金を受け取っている。引出し方法はタイ通貨口座であるので簡単である。又、東京銀行より車購入等のため融資を受けた場合は、東京銀行ニューヨーク信託会社にドル口座を持たなくてはならない。現地引出し方法は、ドル小切手をパーツに交換する方式である。

11. 出入国管理

(イ) 税関検査

① 一般事情

一般的に云って空港の税関はきびしい。特に一般旅券所持者は徹底的に調べられる。専門家の場合は公用旅券があるので概ね問題はない。

② 持込禁止品（国際的禁止品以外の）

③ 入国に際しての注意事項

特になし。

④ 持出禁止品

美術骨とう品の仏像および木彫品（美術局の許可あるものに限る。証明書が必要）

(ロ) 外人登録の有無

無し。希望により D T E C が身分証明書を発行してくれる。

(ハ) ビザの更新は当事務所が大使館名で D T E C 宛口上書を作成提出する。D T E C は口上書に基づき専門家に代って移民局との手続きをしてくれる。通常約 1 ヶ月は要する。

## 12. 便宜供与

（詳細については付録(1) Privileges Accorded To Foreign Experts 参照のこと。）

(イ) 便宜供与の種類

① 住宅手当の現金供与

住宅手当（住宅が提供されない場合）

A) 6ヶ月未満の場合      バンコック滞在最高1日200バーツ  
地 方                      "                      1日100バーツ

B) 6ヶ月以上の場合      バンコック滞在      月4,000バーツ  
地 方                      "                      月2,000バーツ

A)、B) いづれも専門家が立替払いし、領収書なり賃貸契約書の提出が必要であり、後に払戻しを受ける。

② 出張旅費

A) 日当 1日 100バーツを越えない範囲（領収書は不要）  
宿泊費（領収書が必要）



バンコックへの出張…………… 1日最高 200 パーツ  
地方への出張…………… 1日最高 100 パーツ  
車馬賃 使用済切符あるいは領収書の提出による実費  
払いを原則とする。なお、バス、鉄道、舟に  
よることを原則とする。鉄道の場合は一等車  
の乗車は可。特別ハイヤーなる乗物の場合は  
D T E C の許可を必要とする。

B) 公用車の提供は勤務機関の配慮により異なる。但し自家用車を使用する場合は、陸軍サービス・ステーションより購入した、油、ガソリンに限って月 600 パーツを越えない範囲で支給される。

C) タイ政府提供の車の運転の為に運転手を備上する場合（大蔵省の許可を必要とする）月 450 ～ 600 パーツ支給される。

D) 医療費は年間最高 2,000 パーツ支給する。但し歯の治療及び専門家の家族に係る経費は含まない。

③ その他

専門家が着任してから居住先が決定し移転する迄で 6 ケ月を越えない範囲で、バンコックの場合最高 200 パーツ、地方の場合は最高 100 パーツホテル手当として支給される。

上記便宜供与は日本の専門家のみならず第三国よりのコンボプラン専門家に適用されるものである。すべて専門家が現金で支払い D T E C に領収書を添付して勤務先機関を通じ請求するもので、払戻しには約 1 ケ月以上かかることに留意せられたい。

(四) カウンターパート、通訳

カウンターパートは専門家の勤務先機関から配属される。  
通訳の提供はない。

(五) 免税特権

身の廻り品、家庭用品（エアコン、冷蔵庫、ラジオ、プレイヤー）等生活上必要なものは着任時6ヶ月以内に輸入するものについては無税扱いをうける。酒類、タバコ、食糧品、医療品等で個人消費に限って年間最高24,000バーツ（税金払戻し金額）迄購入出来る。

13. 通信、運輸

(1) 郵便事情

① 安全性、配達システム

比較的安全である。バンコックにおいては戸口迄配達されるが、地方の場合は配達されないところが多いので、P.O. BOXを持つことが必要である。

② 電報・電話サービス

電報はバンコックより地方へ、その逆も広範囲にわたって可能である。電話は余り発達しておらずバンコックから主要都市へは限られたところだけである。地方よりバンコックへの通話は比較的良いが、日本に比べたら全くそれこそお話しにならない。バンコック市内においても雨期になると故障が続出して電話のかからないところが多くなる。

③ 手紙、電報の日本・現地間の所要日数

手紙	日本より — バンコック迄	3日間位
	バンコックより — 日本迄	3日間位

電報 日本より — バンコック迄 1 日位  
バンコックより — 日本迄 2 ～ 3 時間

(四) 運 送

① 陸送・海送業者の有無、料金

陸送・海送業者とも有り、料金は重量・距離等により異なるので、実際に見積りさせなければ不明である。業者が暴利をむさぼる様なことは最近少なくなってきた。

② 家財送付上の手続、宛名、注意事項

家財等を送付する際の B L 等の宛名 ( コンサイニー ) は  
Department of Technical and Economic Cooperation,  
attentin :

Mr. Taro Yamada, Colombo Plan Expert とし、B L 等は有価証券であるので紛失すると引取れなくなる恐れがあるので、必ず上記宛先で書留郵便にすること。よく B L だけ送付されて INVOICE PACKING LIST が同封されない場合が往々にしてあるので日本の業者によく注意しておくこと。

部数は ORIGINAL、DUPLICATE、TRIPLICATE 3部あると便利である。

③ 赴任早々至急必要とする衣料等についてはアナカンにした方がいい。この場合でも無税通関手続をして実際に引取るには約 1 ヶ月かかるが、もし本人が輸入税を支払えばすぐにでも引取りが可能である。但し食料品、ラジオ、テープレコーダー等電気製品が入っておれば、輸入税も高額になるため、これらの品物は海送にし無税通関した方がいい。

## 14. 言語

### (イ) 公用語、英語その他第1外国語の普及度

公用語はタイ語である。外国語としては英語が最も普及している。

### (ロ) 現地語事前学習の必要性

英語をマスターしている専門家ならばタイ語を事前研修しておくことはプラスになるが、英語の能力が初級・中級程度の人は英語だけを徹底的に研修することを強くすすめる。  
(話す、書く、読む、聞くことすべて必要)

### (ハ) 語学学習の施設、受講時間等

タイ語塾、英語学校、タイ英語、個人教授もある。受講時間は朝、昼、晩とあり希望の時間に学習出来る。

## 15. 気候

全土が熱帯に属する常夏の国で年平均気温は北部約26度(摂氏)中部約27度、南部28度である。もっとも暑い時期は4月で最高気温40度に達し、12月が一番涼しい。雨期(5-10月)と乾期(11-4月)の区別がはっきりしており、年平均雨量は1,600ミリであるが、半島部はモンスーンの影響を受け雨量が3,000ミリ以上に達するところもある。健康管理上の注意事項は一般的であるが早寝、早起きすること、暴飲暴食を控えること。適当に運動し、腹を立てずに毎日笑顔で暮すことに務めること。事情が許す限り家族を同伴し、家庭料理を食べること。精神的安定が第一である。

## 16. 治安

### (イ) 一般情勢

タイ国は立憲君主国で政権も安定しているが、最近近隣諸

国ラオス、カンボディア、ヴェトナムのインドシナ三国の戦争の為特にカンボディアの政変以来、泰、力、国境周辺の東北部などは共産活動の活発に伴い微妙になってきた。その外泰、マレーシア国境の南部においても同様に共産テロの活動が新聞等に報ぜられているが、現政権が危険にさらされる程強力、大規模なものでないので、全く心配することはないが、これらの地域を旅行することは必ずしも安全とはいえない。経済に関しては成長率は8.3%と高く天候にも恵まれ農産物の多収穫も予想され経済危機の心配は全くない。バンコックに居る限りは全く平和ムードで在留日本人も5,000人と云われ外国に居るとは感じられない程である。バンコックに関しては余り狂悪な犯罪は多くなく、むしろ交通事故の方に気をつけねばならぬ程にバンコックの交通事情は年々悪化している。しかし、最近公園等において日本人に対し警官といつわってパスポートの提示を求めた上タクシーにのせ、人通りの少ないところにつれこみピストルをつきつけ金品を強奪するなどの恐喝事件がひんぱんに起っておるので昼間といえども1人歩きの際は、当国では警察官が路上でパスポートの提示を求めることはあり得ないということを念頭におき、軽々しく話にのらぬよう注意願いたい。又、学生を装ったガイドの誘いにのり、数カ所案内された後不当に高いガイド料を請求された例もあるので、観光の際はホテル等の観光会社に依頼するのが賢明である。しかし泥棒はどここの国でもある様に盗難が多いので夜間時における戸閉りは厳重にしておく方が安全であり、盗る方よりも盗られる方が悪いので盗られない様に

予防することに留意すべきである。

(四) 夜間外出上の注意

現在も戒厳令下にあるが夜間外出は自由である。

しかし深夜のバンコック郊外の外出はしない方が賢明である。特に深夜時のバー、キャバレーにおける飲酒は週日は午後12時迄、週末および翌日が休日の場合は午前1時迄となっている。これは革命評議会の布告でありこれを犯した者は提供するものおよび客の両方共風俗営業法違反で処罰されるので注意しなければならない。

バンコックは東南アジアにおける第一の国際都市で、あらゆる娯楽があり、ポン引、夜の女なども彷徨しており安々と彼等の誘いに乗らぬ様注意すべきである。

(五) ホテルでの注意

ホテルから外出する場合、必要以外の現金、カメラ等の貴重品はホテルのフロントに預けるか、人目につかないようトランクの中にきちんとしまい、鍵をかけるなど盗難防止に細心の注意を払うべきである。

(六) 緊急時における大使館又は駐在員との連絡方法

前記(四)の通り当地は治安も安定しているので、緊急時における避難対策は現在のところ全く考えていない。しかし当事務所は専門家の住居を常時把握し電話等によるリレー連絡により指示を与えて行く方針でもあり、その用意もある。

17. その他

(イ) 対日感情

対日感情は一般的に見て大変良い。しかし日泰間の貿易のインバランスからタイ政府部内に日本を Economic Animal

と強く非難する高官が少なからず居り、又日本が経済侵略していると非難する記事が新聞に報道されているのを見かける。タイ人を刺戟せぬ様専門家も在留邦人として良識ある言動をとることが公私共必要である。

タイ人は小乗仏教の国民であり、温和で殺生を好まない。古くからの独立国でありプライドが非常に高く、そして内向的で控え目のところがある。よって彼等が何を考えているのか腹を読むのが難しい。社交的でユーモアのセンスもあり、個人として交際するのは楽しい。

(ロ) 新聞、雑誌等

バンコックに日本書籍の専門店があり、新聞、雑誌、一般読物は手に入れることが出来る。専門書なども日本より取り寄せてくれる。値段は日本の倍になる。

その外日本のレコードを各種販売している。

(ハ) 風俗、習慣

① 特に禁じられている風習、チップ等

- A) 人の頭には絶体触れてはいけない。日本では他人の子供の頭をなで「いい子」と讃めることは習慣となっているが、タイでは人を侮辱することである。
- B) 女の方は男の坊さんに触れてはいけない。又同席してもいけない。逆に男の人が尼さんに触れてもいけない。又同席してもいけない。(バス等乗物の中でも)
- C) タイ人の家に招かれた場合、婦人は黒色の洋服を着ていってはいけない。ホテル等におけるパーティーは問題はない。
- D) 蓮の花は宗教上の花であるので、人にプレゼントして

はいけない。宗教的行事のみに使うこと。

E) お寺の中では履物を脱ぐこと。

F) お寺に参観に行く時、女性はショートパンツ、ズボン  
を着ていってはいけない。男性はショートパンツはい  
けない。

G) お寺の敷居を踏んではいけない。必ずまたぐこと。

H) 立小便は如何なるところでも控えること。

次にチップであるが、

ホテル、レストランの給仕、空港のボーター等にはチッ  
プをやる習慣がある。タクシーの運転手には必要ない。

#### (二) 美容院

ポーラ美容院、その他外人用……………350～450 バーツ

(パーマメント、セット、シャンプー共)

その他タイ人、一般用……………120～150 バーツ

(シャンプー、パーマ、セット共)

” (セット)……………20～30 バーツ

衛生の度合は比較的良い。

#### (三) 買物

店は大、中、小ある。バンコックには大丸デパート、セン  
トラルデパートがある。その外にスーパーマーケットがあ  
る。個人の店では若干値引するが、デパートなどは値引は  
しない。

(四) その他タイの一般事情を知るには、付録Vの(2)に掲載の出  
版物が参考になるう。

(五) バンコック市内地図(巻末折込み参照)



### Ⅲ 同国に対する我国の技術協力実績

昭和47年3月31日現在

区 分 形 態	農 水 産	建 設	鉱 工 業	運 輸	通 信	厚 生	行 政	そ の 他	累 計 (人)	経 費	
										(千円)	(千米ドル)
研修員受入	552	117	284	114	190	268	248	337	2,080	797,541	2,241
専門家派遣	191	164	183	47	66	239	23	40	903	1,166,782	4,222
セ ン タ ー	名 称	業 務 内 容				期 間	要員数		10	674,014	1,872
	道路建設技術訓練センター (ソングラ)	道路の設計、建設、維持ならびに機械設備の操作についての訓練指導及び実習を兼ねてサムロンからナクワイに至る約52Kmのフィグロードの建設工事を行なう				39.11	10				
						43.11					
	道路建設技術訓練センター (スラタニ)	上記センターと同様道路建設技術者の養成をかねてスラタニからシジョンに至る道路の建設工事を行なう				46.5	10				
						50.5					
	電気通信訓練センター	電気通信施設の設置、操作及び保守の各分野において研修員の訓練				35.8 40.8 40.8 42.8	11				
ヴィールス研究センター	疫学調査ヴィールス性疾患の診断、診断用ヴィールス抗原の製造、その他ヴィールス性疾患の調査等				36.11 41.5 41.5	10 (CPIに切替)					
農 業 協 力	名 称	内 容				期 間	人		166,212	462	
	養蚕開発協力	養蚕技術の改善、蚕品種改良および技術者訓練計画に対する協力				44.3 46					

	名 称	内 容	期 間	人	(千円)	(千メートル)		
農 業 協 力		機 材 供 与 基 礎 調 査	3.43. 7 } 43. 8	5	(200,725)	164		
		実 施 調 査	44. 2 } 44. 8	5				
		巡 回 指 導	45. 2 } 45. 3	4				
		専 門 家 派 遣	45. 4 }	4				
	海外農業開発協 力指導(インド)	タイ、インドに対する農 業協力方針の検討および 指導のための調査	45. 1	5			8,040	
開 発 技 術 協 力	一次産品開発協 力	タイ国の要望する一次産 品7品目(メイズ、マイ ロ、キャッサバ、油糧種 子、タバコ、ケナフ、バ ナナ)の開発輸出計画に 対する協力  機 材 供 与 第 一 次 調 査	43. 2 } 43. 8	4	198,647  (148,834)	588  (800)		
		第 二 次 調 査	43. 8 } 43. 4	12				
		専 門 家 派 遣	43.12 }	8				
	ラムラナイ地区 開発計画調査	当該地区の現状調査なら びにわが国協力のあり方 に関しタイ国政府と実施 細目の検討					2,925	8

開 発 調 査	名 称	内 容	期 間	人	(千円)	(千米ドル)
			調 査	45.11 } 45.12	5	
	名 称	調 査 内 容	期 間	団員数		
	南部道路建設計 画調査	アジアハイウェイの一区 間である同国南部6.5Km を建設する計画のための 調査	36. 2 } 36. 3	5	2,586	7
	鉱物資源開発計 画調査	タイ西北部地域において 銅、錫、鉄、アンチモニ ー、マンガン等の鉱床を 調査してその開発の可能 性の検討	37.11 } 38. 2	9	8,290	23
	東南アジア・デ ルタ調査  (台湾、ビルマ パキスタン インド)	当該国の主要なデルタ地 帯について、かんがい排 水を中心に農業事情調査 を行ない開発の方向を検 討	37.11 } 38. 2	3	3,031	8
	農業開発計画調 査	タイの農業の現状及び問 題点を把握し、これをも とにして農業調査の実施 計画ならびに将来の開発 方針の検討	38. 2 } 38. 4	5	2,592	7
	水産資源開発計 画調査	タイのインド洋沿岸地域 において真珠母貝資源の 調査、資料収集	38. 2 } 38. 4	7	3,904	11
	木材利用工業開 発計画 (パキスタン)	未利用森林資源の開発方 法、および木材利用工業 開発の可能性調査	38.12 } 39. 2	5	5,786	16

	名 称	調 査 内 容	期 間	団 員 数	(千円)	(千米ドル)
開	ナムサイヤイ電 源開発計画調査 (第1、第2)	バンコックの東北約150 Kmの地点にあるナムサイ ヤイ流域を踏査して、ナ ムサイヤイ電源開発計画 の開発方針の検討とフィ ジビリティ調査	40. 2	15	21,054	59
			40. 3			
43. 8						
43. 3						
発	東南アジアケー ブル計画調査	台湾〜フィリピン〜タイ 間ケーブル建設のためタ イのケーブル陸揚地点の 選定等	41. 3	5	3,892	11
			41. 4			
調	テレビジョン放 送網建設計画調 査	タイ政府は各地に送信所 及びマイクロ波中継局を 建設してテレビを全国中 継することに決定、この 計画設計建設のための調 査	41. 5	7	10,898	30
			41. 8			
査	ナムボン上流域 開発計画調査実 施のための調査	電力需要の増大に備える ためNam Phram, Nam Cheruの二水力発電計 画に関する予備調査	41. 6	9	17,788	49
			41. 7			
41.11						
42. 1						
	東南アジア地域 開発計画調査実 施のための調査 (フィリピン マレーシア)	経済企画、開発所管担当 省庁等と接触させわが国 が将来実施すべき開発調 査プロジェクトの選別確 認資料収集等を行ない事 後に派遣する調査団の乗 務遂行を円滑ならしめる ための調査	41. 7	7	6,506	18
			41. 8			

	名 称	調 査 内 容	期 間	団 員 数	(千円)	(千米ドル)
開 発 調 査	ノンカイ・ヴィ ンチャン間橋梁 建設計画調査	メコン河本流に道路、鉄 道併用橋を建設し、アジ アハイウェイ12号線の ノンカイ(タイ)とヴィ ンチャン(ラオス)間を 運けいしあわせてゴンコ ク/ノンカイ間の既設鉄 道をヴィエンチャンまで 延長する計画についてそ の建設の可能性の検討	42. 8 } 42.10 43. 1 } 43. 3 43. 4 } 43. 7 43.11 } 44. 2 44. 1 } 44. 2	41	55,077	153
	東南アジア域内 電気通信網整備 計画調査  (台湾、フィリ ピン、インド ネシアラオス、 マレーシア、 ヴェトナム)	当該7カ国相互間の通信 計画基本構想樹立のため の調査	42.10 } 42.11	6	4,851	14
	バンコク〜トン ブリ間架橋計画 調査	タイ国首都圏の中核をな すバンコク〜トンブリ両 都市間を結ぶ交通網整備 のためチャオビア河地点 に第一橋の架橋建設計画 を立て地形、地質等の調 査	42.12 } 43. 3	8	17,262	48
	東南アジア6カ 国鉄鋼業開発拡 充調査  (台湾、マレ シア、フィリ)	当該国に調和のとれた鉄 鋼業を建設するための調 査	43. 6 } 43. 7	8	12,082	34

	名 称	調 査 内 容	期 間	団 員 数	(千円)	(千米ドル)
開 発 調 査	(ビン、タイ、 インドネシア、 シンガポール)					
	チャオピア河架 橋計画調査	バンコク／トンブリ両都 市間を結ぶ交通網整備の ためチャオピア河上に架 橋計画を策定し、第一橋 としてTha Chang Wanghoh 地点に予定 しその架橋計画調査	43. 7 } 43.12	11	42,224	117
	バンコク～トン ブリ間第二橋架 橋計画調査	バンコク～トンブリを結 ぶ第二橋のフィジビリテ ィ調査。経済調査と建設 工法等の技術調査	44. 3 } 44. 4 44. 8 45. 3 } 45. 4	18	25,064	70
	工業団地開発計 画基礎調査	第2次経済開発計画によ る工業団地造成のためバ ンコクとその周辺、東北 および北タイの開発地域 についての基礎調査	44.11 } 44.12	9	9,208	26
	クロンタダンお よびナンバイ水 力開発計画調査	バンコク北方のクロンタ ダンサイトおよびナンバ イサイトにおけるダム建 設計画に関し、前者につ いてはプレフィジビリテ ィ調査、後者については 踏査の実施	46. 2 } 46. 3	5	18,078	14
	地方都市水道施 設拡張計画調査	東北地方ナコンラチャシ マ市と北部地方チェンマ イ市の上水施設整備拡張 計画に関するフィージビ リティ調査	46. 3 } 46. 4	4	7,919	22

	名 称	調 査 内 容	期 間	団 員 数	(千円)	(千米ドル)	
	開 発  調 査	食肉加工業開発 計画調査	口蹄病等の家畜伝染病の 問題、食品衛生の処理面 等現地調査	46.5. 9 } 46.5.28	5	37,961	108
ソククラ港建設 計画調査		ソククラ港の改良及び拡 張計画立案のための基礎 調査	40.11 } 40.12 42. 3 } 42. 7  46. 8 } 46.11	16     15	22,822     37,960	63     108	
鉄道建設計画調 査		アジア幹線鉄道網の一環 として考えられているバ ンコクからビルマ国境附 近のメソドに至る鉄道路 線の延長について輸送需 要、路線踏査等の調査を 実施し技術的、経済的に 有利なルートを選定しよ うとするもの	46.11	8	10,786	31	
メ コ ン		ノンカイ〜ヴィエンチャ ン鉄道建設計画調査	48.11 } 44. 2	4	7,919	22	
機 材 供 与		機 材 名	供 与 先 機 関	年 度	数 量		
		脳外科病院用機 材	Soudet C hoographya 病院	39	1 式	6,498	18
		熱帯医学野外調 査用機材	公衆衛生省等	40	1 式	2,866	7
		密輸捜査用機材	警 察 局	40	1 式	481	1

	機 材 名	供 与 先 機 関	年 度 数 量	(千円)	(千米ドル)
機 材 供 与	語学研修用機材	国家開発省経済技術協力 局	42 1 式	4,509	18
	港湾水理観測機 材	港 湾 局	45	2,118	6
	水道水源調査用 機材	公 共 事 業 局	46	8,992	26
	窯業訓練用機材	工 業 振 興 局	46	9,092	26
	内科、外科、眼 科、X線検査等 機材、医薬品	国 立 病 院	42	14,325	40
	生薬研究機材	薬 品 研 究 所	42	8,488	24
	ウイルス診断 研究用機材	ヴ ィ ー ル ス セ ン タ ー	42	4,691	18
	レントゲン機材、 検査用機材	ガ ン セ ン タ ー	42	35,577	99
	ダニ、殺虫剤の 研究に必要な機 材	熱帯医学研究所	42	3,235	9
	結核関係、医学 研究に必要な機 材	中央胸部病院	42	1,462	4
	神経外科、脳波 関係機材	国立ソムデットチャオク ラヤ病院	42	4,552	18
	レントゲン車、 実験用機材	プリラム、スリサケット 病院	42	9,105	25
	胸部外科、心臓 外科機材	チュラロンコン病院 中央胸部病院	42	552	2
	X線テレビ、臨 床検査機材	ガ ン セ ン タ ー	48	67,711	188
	分光光度計	ヴ ィ ー ル ス セ ン タ ー	48	4,827	18



	名 称	供与先機関	年 度 数 量	(千円)	(千米ドル)
機	作業車等	中央胸部病院	43	3,620	9
	作業車、殺虫剤 等	熱帯医学病院	43	10,496	29
	ポリグラフ、筋 電計	精 神 病 院	43	4,008	11
	アミノ酸分析機 製氷機	薬品栄養研究所	43	10,271	29
	顕微鏡等	ラマチボディ医大	43	32,176	89
	多用途監視記録 装置、医療機材 等	薬品研究所	44	5,888	15
	医療機材、ガスク ロマトグラフ装置 等	ラマチボディ医大	44	6,924	19
	医療機材等	ウイルスセンター	44	6,657	18
	放射線治療機材 等	ガンセンター	44	58,416	2
	気管支鏡等器材	国立中央病院	44	822	2
材	ガストロカメラ 等	Bhumipal Adulyadez 病院	44	416	1
	ラジウム貯蔵庫	ガンセンター	45	27,678	77
	ホモジナイザー等	ウイルスセンター	45	3,045	8
	電子顕微鏡	ラマチボディ医大	45	13,054	36
	超遠心分離機	"	45	9,970	28
	電磁血流計	薬品研究所	45	5,020	14
	胸部外科研究機 材	ナムルンラジンマ病院	46	1,543	4
	多用途監視記録 装置等	ラマチボディ医大	46	14,586	42
	眼科機材	"	46	2,149	6
	双眼顕微鏡等	マヒピール大学医学部	46	2,103	6
与	等線量曲線自記 装置等	国立ガンセンター	46	6,532	19
	戸過装置等	"	46	85,473	244
	薬理実験用機材	薬品研究所	46	1,194	3
	動物室調設備	ウィルス病対策	46	9,385	27

#### IV 海外事務所等連絡先

大使館

住 所 Embassy of Japan  
1674, New Petchuburi Road,  
Bangkok 10, THAILAND

電話番号 53301

海外事務所

1) 住 所 Bangkok Office, OTCA  
c/o Embassy of Japan  
1674, New Petchuburi Road,  
Bangkok 10, THAILAND

電話番号 53301

2) TELEX の場合

MORIYA MIYAMOTO  
BANGKOK OFFICE, OTCA  
C/O NIHONTAISHI BANGKOK

~~北野 宮本海外事務所長自宅~~

住 所 Mr. Moriya MIYAMOTO  
229, Toong Ma Hamek Suanplooo,  
Bangkok 10, THAILAND

電話番号 861223

V 付録 (1)

**PRIVILEGES  
ACCORDED TO FOREIGN EXPERTS**

**On Official Programs of Technical and Economic  
Cooperation with the Government of Thailand**

**Department of Technical and Economic Cooperation  
Ministry of National Development**

**Bangkok, Thailand**

**April, 1967**

## FOREWORD

As a result of the increasing interest in programs of technical and economic cooperation with Thailand shown by many foreign governments and by almost all Departments of the Government of Thailand, a growing number of foreign experts and technicians have come to Thailand to assist the Government in the process of accelerated development. To ensure that foreign experts and technicians are given every facility in carrying out their task, the Government has taken steps to accord suitable privileges and exemptions to these experts in recognition of the importance of the services they provide to Thailand.

Agreements have been concluded with many foreign governments to define the status of foreign experts and to provide the legal basis for appropriate exemptions, particularly in respect of customs duties and taxes. A special committee has been set up to lay down a framework for privileges which can be offered unilaterally by the Government, notably in respect of tax reimbursements for those experts who would not legally be entitled to exemptions. In addition funds have been set aside to provide for various expenses which may be incurred in connection with the experts' assignments.

As a result of the various bilateral agreements, laws and regulations a wide range of facilities can now be offered to foreign experts working in Thailand. But misunderstandings and confusion have sometimes arisen as to the correct application of privileges and exemptions. I have felt, therefore, that there was a need for a handbook which would explain the facilities which we are able to accord to experts provided by different governments and organizations. The staff of the Department of Technical and Economic Cooperation has now compiled this handbook as a guide to the working rules as present followed in interpreting the relevant bilateral agreements, laws and regulations.

It is possible that some errors may have persisted despite all our efforts to secure the most accurate possible statement of the working rules to be observed. We should welcome any comments or observations which might lead to subsequent corrections or to greater clarity in presentation.

We hope that publication of this handbook will be of value to foreign experts and technicians for whose convenience the privileges and exemptions are provided. We hope also that it may be useful to other governments and organizations who may consider sending technical staff to Thailand in the future as part of a program of technical cooperation. Finally, I hope that the publication of this handbook may contribute ultimately to the revision of regulations and agreements to secure greater uniformity which help to avoid misunderstandings of any kind.

*Bunchana Atthakor*

(Bunchana Atthakor)

Director-General

Department of Technical and Economic  
Cooperation.

*April 27, 1967*

## TABLE OF CONTENTS

### *Foreword*

#### **A. General Privileges**

Section 1	Immigration Privileges .....	2
Section 2	Allowances and Reimbursable Expenses .....	2
Section 3	Tax and Duty Exemptions .....	4
Section 4	Tax and Duty Reimbursements .....	5
Section 5	Legal Obligations .....	6

#### **B. Summary of Special Privileges**

List of Privileges which may be Granted under Section 3....	8
List of Privileges which may be Granted under Section 4....	8

#### **C. Application of Special Privileges**

##### *Colombo Plan (with covering agreement)*

Schedule of Privileges under Sections 3 & 4 .....	10
---	----

##### *Colombo Plan (no covering agreements)*

Schedule of Privileges under Sections 3 & 4 .....	11
---	----

##### *Federal Republic of Germany*

Schedule of Privileges under Sections 3 & 4 .....	12
---	----

##### *Other Government (with covering agreement)*

Schedule of Privileges under Sections 3 & 4 .....	13
---	----

##### *Other Government (no covering agreement)*

Schedule of Privileges under Sections 3 & 4 .....	14
---	----

##### *Ford Foundation and Rockefeller Foundation*

Schedule of Privileges under Sections 3 & 4 .....	15
---	----

**PRIVILEGES ACCORDED TO FOREIGN EXPERTS ON  
OFFICIAL PROGRAMS OF TECHNICAL AND  
ECONOMIC COOPERATION WITH THE GOVERNMENT OF THAILAND**

---

The privileges detailed in the following sections are applicable to all foreign experts except those provided under U.S. Government or U.N. programs, for whom separate provisions apply. The privileges are classified in five sections:

1. Immigration privileges
2. Allowances and reimbursable expenses
3. Tax and duty exemptions
4. Tax and duty reimbursements
5. Legal obligations

Privileges under sections 1 and 2 are applicable to all foreign experts alike. The privileges under sections 3 and 4 are dependent on the existence and the provisions of bilateral agreements or project agreements concerning programs of technical and economic cooperation between the foreign government or agency and the Government of Thailand. In the following sections the term 'project agreement' refers only to those formal agreements in which tax and duty privileges for experts under the project have been agreed by the governments concerned.

## A. GENERAL PRIVILEGES

### SECTION 1 IMMIGRATION PRIVILEGES

#### 1.1 *Exemption from visa and immigration fees and from alien registration*

When the expert first arrives in Thailand a temporary residence permit must be obtained from the immigration authorities. A re-entry visa or multiple re-entry visa will be required if the expert temporarily leaves Thailand at any time during his assignment. The expert is exempted from the payment of fees for such visas and permits and is not required to hold an alien registration certificate. These rules apply equally to the wife and children of the expert.

Upon request DTEC will assist in obtaining residence permits and re-entry visas. If desired DTEC will also provide an identification card for the expert for the duration of his assignment. The necessary forms and details of these facilities are available on written request from DTEC Colombo Plan or Third Countries Divisions.

### SECTION 2 ALLOWANCES AND REIMBURSABLE EXPENSES

All allowances and reimbursements of expenses are paid through DTEC Finance Division. Tickets or receipts for payments will be required by DTEC Finance Division in order to secure reimbursements. Payment will be made by cheque after sufficient time has elapsed for the formalities involved in the authorisation of the payment. The name of the person who will collect the cheque should always be notified to DTEC Finance Division.

#### 2.1 *Accommodation*

If free accommodation is not provided to the expert by the Government, the following reimbursements for actual expenses are payable:

- (a) assignments of not more than six months duration; up to a maximum of 200 baht per day in Bangkok and 100 baht per day in other parts of the country, on provision of receipts for actual payments.
- (b) assignments of more than six months duration; house rent up to a maximum of 4,000 baht per month in Bangkok and 2,000 baht per month in other parts of the country. A signed



copy of the contract to rent the house must be deposited with DTEC Finance Division. Reimbursement will be arranged when the receipt for house rent (with stamp duty affixed at the rate of 50 satang per 100 baht) has been received by DTEC. Tax at the rate of 10 or 30 satang per 100 baht (depending on the legal status of the owner) will be deducted from the reimbursement and a certificate of tax payment will be attached. This tax should be recovered from the person to whom rent has been paid, on production of the certificate.

### *2.2 Allowance for travel on official duties*

The following expenses will be reimbursed for official travel away from the post to which the expert is assigned:

- (a) Living allowance of not more than 100 baht per day (no receipts necessary)
- (b) Actual cost of hotel accomodation up to a maximum of 200 baht per day in Bangkok and 100 baht per day in other parts of the country. Receipts for actual payment are required.
- (c) Actual cost of travel, on production of tickets or receipts. The expert should travel by scheduled passenger services (bus, train or boat) wherever possible, and may travel first class in the case of classified passenger service. For travel by special hire service, the approval of the Department to which the expert is attached, or of the Governor of the province concerned (as circumstances permit) must be obtained.

An application for reimbursement of expenses incurred on official travel must be accompanied by the standard form detailing the journey performed and indicating the approval of the Department to which the expert is attached.

### *2.3 Allowances for transport*

If a car is required for the performance of official duties, the following expenses are reimbursable upon provision of receipts:

- (a) Fuel and lubrication oils purchased from any Armed Forces Service Station, not exceeding 600 baht in one month.

- (b) Repair and maintenance costs incurred as the direct result of official duties. If repair and maintenance costs are in excess of 1,000 baht, the approval of the Department to which the expert is attached will be required.

For vehicles supplied by the Thai Government, the wages of one driver, at the rate 450-600 baht per month, are reimbursable subject in each individual case to the approval of the Ministry of Finance.

#### *2.4 Medical expenses*

Expenses for medical treatment (but not including dental treatment) for the expert (but not his family or dependents) will be reimbursed up to a maximum of 2,000 baht per year upon provision of receipts.

#### *2.5 Internal travel and accomodation on first arrival*

The following expenses will be reimbursed after the expert's first arrival:

- (a) Actual cost of travel, on production of tickets or receipts, for the expert and his wife and children from the point of entry to the post to which he is assigned.
- (b) Actual cost of hotel accomodation, up to a maximum of 200 baht per day in Bangkok and 100 baht per day in other parts of the country, until the expert moves into permanent residence and in any case for a period not exceeding six months from the date of first arrival. Receipts for actual payments are required.

### **SECTION 3 TAX AND DUTY EXEMPTIONS**

The tax and duty exemptions to which an expert may be entitled depend on the provisions of a bilateral or project agreement. Those exemptions to which an expert is entitled are indicated in part C.

Upon request DTEC Tax Clearance Division will assist the expert in securing tax and duty clearance from the Customs and Revenue Departments in respect of imported goods and effects. The expert himself will be responsible for collection of the goods and effects from the Port of Bangkok and for payment of any incidental charges. He is strongly recommended to engage the services of a transport firm or of one of the people at the Port of Bangkok who are specialised in the

task and will be able to guide him through the formalities involved. The tax Clearance Division has a list of such people and firms whom the expert may hire. Clearance from the Customs and Revenue Department must be obtained before collection of the goods from the Port.

Exemptions of customs duty on durable imported goods and effects (including a motor-vehicle) are conditional upon subsequent re-export of the goods and effects prior to the expert's final departure. The expert should confirm the export or disposal of the goods and effects with DTEC Tax Clearance Division as soon as possible and not less than *fifteen days before his final departure*. In the case of sale or transfer within Thailand to any person not entitled to the relevant exemptions, the goods and effects will be subject to the customs duties and taxes prescribed by law. The expert must inform DTEC Tax Clearance Division of such sale or transfer as soon as possible and not later than twenty days after the sale or transfer. The expert (and not the recipient or purchaser) is legally responsible for the payment of *duties and taxes*.

#### SECTION 4 TAX AND DUTY REIMBURSEMENTS

The tax and duty reimbursements to which an expert may be entitled depend on the existence and the provisions of a bilateral or project agreement. Those reimbursements to which an expert is entitled are indicated in part C.

*The expert is himself responsible for the payment of taxes and duties for which he will be entitled to reimbursement.* The relevant tax receipts, copies of invoices and import entry forms should be forwarded to DTEC Tax Clearance Division through the Department to which he is attached. The name of the person who is to collect the cheque for reimbursement should be given. The cheque will be issued through DTEC Finance Division after clearance and authorisation of the payment.

*Reimbursement of taxes and duties on imported consumable goods* at the prescribed rates will be granted pro rata within each fiscal year (1 October to 30 September). Reimbursements may be granted retro-

spectively in the new fiscal year for taxes and duties paid during the previous fiscal year. But unused privileges in one fiscal year (i.e. the balance of undisbursed funds) will not be carried forward for the reimbursement of taxes and duties paid in the subsequent fiscal year.

Reimbursement of customs duty on *durable imported goods* (e.g. motor-vehicles) is conditional upon the subsequent re-export of the goods prior to the expert's final departure. The expert should confirm the export or disposal of the goods and effects with DTEC Tax Clearance Division as soon as possible and not less than fifteen days before his final departure. In the case of sale or transfer within Thailand to any person not entitled to the relevant exemptions, the goods and effects will be subject to the prescribed customs duties and taxes. The expert must inform DTEC Tax Clearance Division of such sale or transfer as soon as possible and not more than twenty days after the date of sale or transfer. The expert (and not the recipient or purchaser) is legally responsible for the payment of duties and taxes.

## SECTION 5 LEGAL OBLIGATIONS

Some obligations with which experts are requested or required by law to conform are listed below.

### *5.1 Vehicle and driving licenses*

Experts are not exempt from taxes and fees relating to vehicle and driving licenses issued by the Police Department. The license for a personal motor-vehicle must be obtained immediately after import, and must be renewed at the beginning of each calendar year. A driving license should be obtained on the expert's first arrival and renewed each year upon expiry. The expert should take care to inform himself of traffic laws and regulations, and is strongly advised to arrange insurance for a personal motor-vehicle. Upon request DTEC will assist in obtaining vehicle and driving licenses.

### *5.2 Licenses for firearms*

Licenses must be obtained from the Police Department for the import and possession of firearms. Taxes and fees must be paid by the expert. Upon request DTEC will assist in obtaining licenses.

### ***5.3 Leave***

The expert will be free on Saturdays, Sundays and official holidays. Other leave should be taken in accordance with rules and regulations prescribed by the supplying government or organization. The approval of the Government organization to which the expert is attached should normally be requested before leave is taken.

### ***5.4 Completion of Assignment***

Before departure on completion of assignment the expert *must* inform DTEC about the disposal of imported durable goods (including motor-vehicle) or firearms (see sections 3 & 4).

*B. SUMMARY OF SPECIAL PRIVILEGES (see part C).*

LIST OF PRIVILEGES WHICH MAY BE GRANTED UNDER SECTION 3

- 3.1 Exemption from customs duties on personal and household effects (not including a motor-vehicle) which were in the possession of the expert or his dependents on the date of, and imported within six months after, the expert's first arrival in Thailand.
- 3.2 Exemption from customs duties on the import of one motor-vehicle for the personal use of the expert in connection with his assignment and imported within eighteen months after his first arrival in Thailand. Exemption or reimbursement will not be granted in the case of purchase of a motor-vehicle from previously imported stock held by an importer. After four years from the date of import the vehicle may be disposed of (subject to the conditions relating to transfer or resale within Thailand) and a second vehicle may be imported exempt from customs duties.
- 3.3 Exemption from customs duties on the import of one motor-vehicle for the personal use of the expert in connection with his assignment and imported within six months after his first arrival in Thailand. Exemption or reimbursement will not be granted in the case of purchase of a motor-vehicle from previously imported stock held by an importer. After four years from the date of import the vehicle may be disposed of (subject to the conditions relating to transfer or resale within Thailand) and a second vehicle may be imported exempt from customs duties.
- 3.4 Exemption from income taxes on salaries, allowances and earnings drawn from the expert's own country.

LIST OF PRIVILEGES WHICH MAY BE GRANTED UNDER SECTION 4

- 4.1 Reimbursement of duties and taxes on spirits, cigarettes, beverages and foodstuffs imported by the expert for personal consumption. The reimbursement of duties and taxes is limited to a maximum rate of 14,000 baht per year. Experts who are entitled to these

benefits should not be given similar benefits in other forms, such as the right to purchase spirits, cigarettes and consumable goods from the PX or Commissary.

- 4.2 Reimbursement of duties and taxes on spirits, cigarettes, beverages, foodstuffs and medicaments imported by the expert for personal consumption. The reimbursement of duties and taxes is limited to a maximum rate of 24,000 baht per year. Experts who are entitled to these benefits should not be given similar benefits in other forms, such as the right to purchase spirits, cigarettes and consumable goods from PX or Commissary.
- 4.3 Reimbursement of customs duties payable on the import of one motor-vehicle for the personal use of the expert in connection with his assignment and imported within six months after his first arrival in Thailand. Exemption or reimbursement will not be granted in the case of purchase of a motor-vehicle from previously imported stock held by an importer. After four years from the date of import the vehicle may be disposed of (subject to the conditions relating to transfer or resale within Thailand) and reimbursement claimed on a second imported vehicle.
- 4.4 Reimbursement of income taxes on salaries, allowances and earnings drawn from the expert's own country. The expert must submit an income tax return to the Revenue Department by February 28 each year. DTEC Tax Clearance Division can assist the expert in paying and securing reimbursement of the income tax.

## C. APPLICATION OF SPECIAL PRIVILEGES

### Colombo Plan (with covering agreement)

SCHEDULE OF PRIVILEGES UNDER SECTIONS 3 & 4 accorded to experts under the Colombo Plan who are covered by a bilateral agreement or project agreement.

For general conditions governing these privileges see notes under Section 3 and Section 4.

#### *Item*

- 3.1 Exemption from customs duties on personal and household effects (not including a motor-vehicle) which were in the possession of the expert or his dependents on the date of, and imported within six months after, the expert's first arrival in Thailand.
- 3.3 Exemption from customs duties on the import of one motor-vehicle for the personal use of the expert in connection with his assignment and imported within six months after his first arrival in Thailand. Exemption or reimbursement will not be granted in the case of purchase of a motor-vehicle from previously imported stock held by an importer. After four years from the date of import the vehicle may be disposed of (subject to the conditions relating to transfer or resale within Thailand) and a second vehicle may be imported exempt from customs duties.
- 3.4 Exemption from income taxes on salaries, allowances and earnings drawn from the expert's own country.
- 4.1 Reimbursement of duties and taxes on spirits, cigarettes, beverages and foodstuffs imported by the expert for personal consumption. The reimbursement of duties and taxes is limited to a maximum rate of 14,000 baht per year. Experts who are entitled to these benefits should not be given similar benefits in other forms, such as the right to purchase spirits, cigarettes and consumable goods from the PX or Commissary



**Colombo Plan (no covering agreement)**

**SCHEDULE OF PRIVILEGES UNDER SECTIONS 3 & 4** accorded to experts under the Colombo Plan who are not covered by a bilateral agreement or project agreement.

For general conditions governing these privileges see notes under Section 3 and Section 4.

*Item*

- 3.1 Exemption from customs duties on personal and household effects (not including a motor-vehicle) which were in the possession of the expert or his dependents on the date of, and imported within six months after, the expert's first arrival in Thailand.
- 3.4 Exemption from income taxes on salaries, allowances and earnings drawn from the expert's own country.
- 4.1 Reimbursement of duties and taxes on spirits, cigarettes, beverages and foodstuffs imported by the expert for personal consumption. The reimbursement of duties and taxes is limited to a maximum rate of 14,000 baht per year. Experts who are entitled to these benefits should not be given similar benefits in other forms, such as the right to purchase spirits, cigarettes and consumable goods from the PX or Commissary.
- 4.3 Reimbursement of customs duties payable on the import of one motor-vehicle for the personal use of the expert in connection with his assignment and imported within six months after his first arrival in Thailand. Exemption or reimbursement will not be granted in the case of purchase of a motor-vehicle from previously imported stock held by an importer. After four years from the date of import the vehicle may be disposed of (subject to the conditions relating to transfer or resale within Thailand) and reimbursement claimed on a second imported vehicle.

**Federal Republic of Germany**

**SCHEDULE OF PRIVILEGES UNDER SECTIONS 3 & 4** accorded to experts covered by the bilateral and project agreements with the Federal Republic of Germany.

For general conditions governing these privileges see notes under Section 3 and Section 4.

*Item*

- 3.1 Exemption from customs duties on personal and household effects (not including a motor-vehicle) which were in the possession of the expert or his dependents on the date of, and imported within six months after, the expert's first arrival in Thailand.
- 3.2 Exemption from customs duties on the import of one motor-vehicle for the personal use of the expert in connection with his assignment and imported within eighteen months after his first arrival in Thailand. Exemption or reimbursement will not be granted in the case of purchase of a motor-vehicle from previously imported stock held by an importer. After four years from the date of import the vehicle may be disposed of (subject to the conditions relating to transfer or resale within Thailand) and a second vehicle may be imported exempt from customs duties.
- 3.4 Exemption from income taxes on salaries, allowances and earnings drawn from the expert's own country.
- 4.2 Reimbursement of duties and taxes on spirits, cigarettes, beverages, foodstuffs and medicaments imported by the expert for personal consumption. The reimbursement of duties and taxes is limited to a maximum rate of 24,000 baht per year. Experts who are entitled to these benefits should not be given similar benefits in other forms, such as the right to purchase spirits, cigarettes and consumable goods from the PX or Commissary.

**Other Governments (with covering agreement)**

SCHEDULE OF PRIVILEGES UNDER SECTIONS 3 & 4 accorded to experts outside the Colombo Plan on an inter-government program who are covered by a bilateral agreement or a project agreement (but excluding experts from the Federal Republic of Germany).

For general conditions governing these privileges see notes under Section 3 and Section 4.

*Item*

- 3.1 Exemption from customs duties on personal and household effects (not including a motor-vehicle) which were in the possession of the expert or his dependents on the date of, and imported within six months after, the expert's first arrival in Thailand.
- 3.3 Exemption from customs duties on the import of one motor-vehicle for the personal use of the expert in connection with his assignment and imported within six months after his first arrival in Thailand. Exemption or reimbursement will not be granted in the case of purchase of a motor-vehicle from previously imported stock held by an importer. After four years from the date of import the vehicle may be disposed of (subject to the conditions relating to transfer or resale within Thailand) and a second vehicle may be imported exempt from customs duties.
- 3.4 Exemption from income taxes on salaries, allowances and earnings drawn from the expert's own country.
- 4.1 Reimbursement of duties and taxes on spirits, cigarettes, beverages and foodstuffs imported by the expert for personal consumption. The reimbursement of duties and taxes is limited to a maximum rate of 14,000 baht per year. Experts who are entitled to these benefits should not be given similar benefits in other forms, such as the right to purchase spirits, cigarettes and consumable goods from the PX or Commissary.

**Other Governments (no covering agreement)**

SCHEDULE OF PRIVILEGES UNDER SECTIONS 3 & 4 accorded to experts outside the Colombo Plan on an inter-government program who are not covered by a bilateral agreement or a project agreement.

For general conditions governing these privileges see notes under Section 3 and Section 4.

*Item*

- 3.1 Exemption from customs duties on personal and household effects (not including a motor-vehicle) which were in the possession of the expert or his dependents on the date of, and imported within six months after, the expert's first arrival in Thailand.
- 3.4 Exemption from income taxes on salaries, allowances and earnings drawn from the expert's own country.
- 4.1 Reimbursement of duties and taxes on spirits, cigarettes, beverages and foodstuffs imported by the expert for personal consumption. The reimbursement of duties and taxes is limited to a maximum rate of 14,000 baht per year. Experts who are entitled to these benefits should not be given similar benefits in other forms, such as the right to purchase spirits, cigarettes and consumable goods from the PX or Commissary.

**Ford Foundation and Rockefeller Foundation**

SCHEDULE OF PRIVILEGES UNDER SECTION 3 & 4 accorded to experts from the Ford Foundation and the Rockefeller Foundation.

For general conditions governing these privileges see notes under Section 3 and Section 4.

*Item*

- 3.1 Exemption from customs duties on personal and household effects (not including a motor-vehicle) which were in the possession of the expert or his dependents on the date of, and imported within six months after, the expert's first arrival in Thailand.
- 4.2 Reimbursement of duties and taxes on spirits, cigarettes, beverages, foodstuffs and medicaments imported by the expert for personal consumption. The reimbursement of duties and taxes is limited to a maximum rate of 24,000 baht per year. Experts who are entitled to these benefits should not be given similar benefits in other forms, such as the right to purchase spirits, cigarettes and consumable goods from the PX or Commissary.
- 4.3 Reimbursement of customs duties payable on the import of one motor-vehicle for the personal use of the expert in connection with his assignment and imported within six months after his first arrival in Thailand. Exemption or reimbursement will not be granted in the case of purchase of a motor-vehicle from previously imported stock held by an importer. After four years from the date of import the vehicle may be disposed of (subject to the conditions relating to transfer or resale within Thailand) and reimbursement claimed on a second imported vehicle.
- 4.4 Reimbursement of income taxes on salaries, allowances and earnings drawn from the expert's own country. The expert must submit an income tax return to the Revenue Department by February 28 each year. DTEC Tax Clearance Division can assist the expert in paying and securing reimbursement of the income tax.

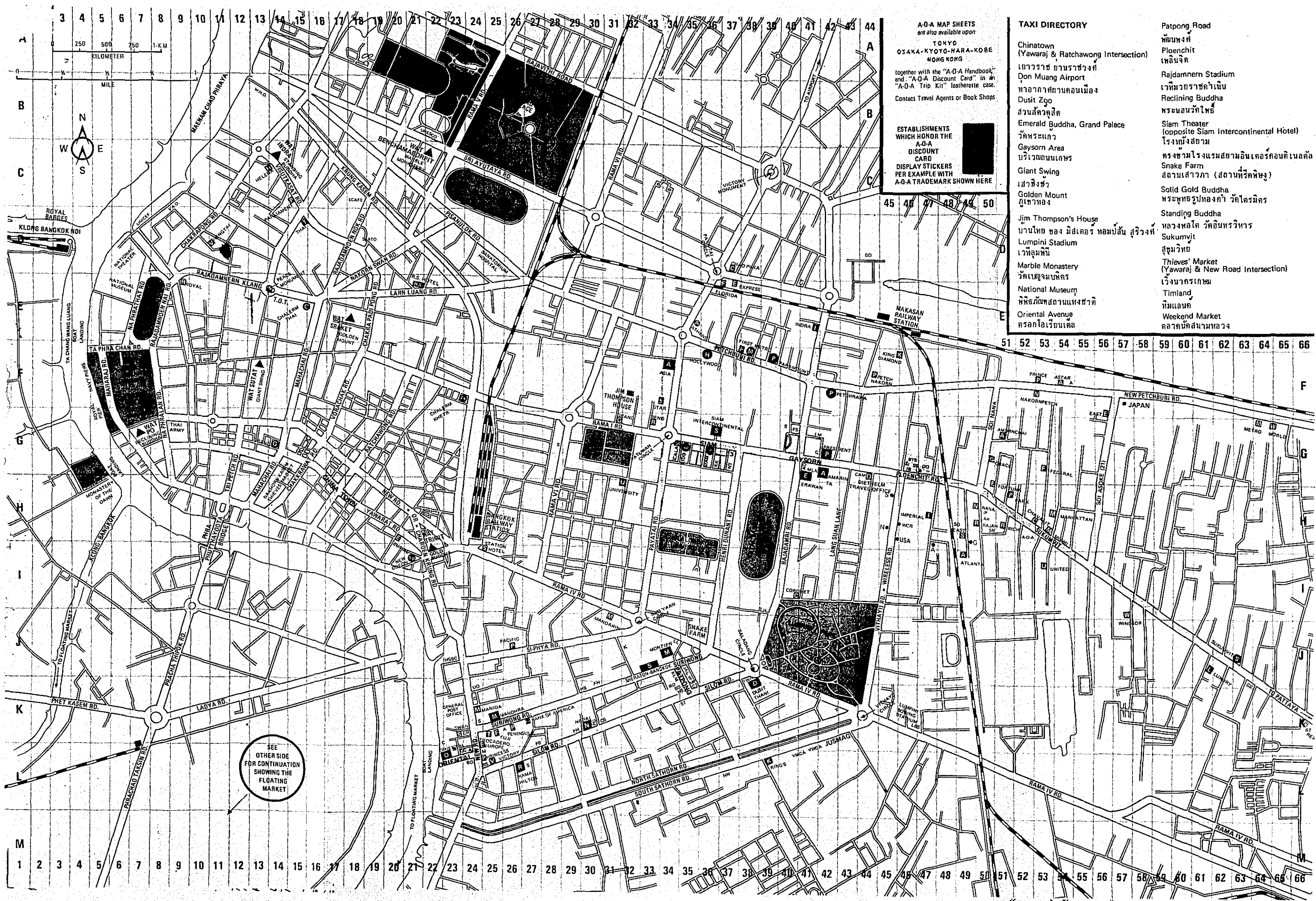
## 付録 (2)

### (A) タイの一般事情を知るために

書名	著者	出版社他
動乱のアジア	ブライア・フロジャー 山下正雄訳	時事通信社
メコンの開発	シューウエル・ホワイト 安芸岐一訳	"
タイと東南アジアの争乱	ニヒター・ライン 山下政雄訳	"
東南アジアの経済(上・下)	山下政雄著 安芸岐一著	"
モンスーンアジア	別技篤彦	アジア経済研究所 №26
東南アジアと日本	丸山静雄	" №15
東南アジアの水	家永泰光	" №29
東南アジアのこころ	岩田慶治	" №30
タイの日本企業	田中忠治	" №2
タイ農業の真実	長谷川善彦	" №5
タイにおける最近の政治経済 動向	田中忠治	"
東南アジアの価値体系 (タイ編)	河部利夫 田中忠治	現代アジア出版会
低開発国経済の動向と南北問題	外務省経済協力局	
タイ王国	外務局アジア局	日本国際問題研究所
東南アジアの少数民族	岩田慶治	
熱帯病学	東大出版会	
History of Siam	Wood	
Asia	Dudley Stump	
South East Asia	Dobby	

(B) 英語の勉強レポート作成のために赴任時に持参した方が  
良いもの(1例)

書名	著者	出版社他
時事英語の読み方	ダイヤモンド社	ダイヤモンド社
米英語商業通信文	橋本 修	同文館
英文タイプの初歩	百瀬泰男	日本文芸社
英作文の基本文型	岩田一男	三省堂
英語単語熟語集	赤尾好夫	旺文社
その他 英-和、和-英辞書		



A-O-A MAP SHEETS are also available upon  
**TOKYO**  
**OSAKA-KYOTO-NARA-KOBE**  
**HONG KONG**  
 together with the "A-O-A Handbook" and "A-O-A Discount Card" in an "A-O-A Trip Kit" leatherette case. Contact Travel Agents or Book Shops.

**ESTABLISHMENTS WHICH HONOR THE A-O-A DISCOUNT CARD DISPLAY STICKERS PER EXAMPLE WITH A-O-A TRADEMARK SHOWN HERE**

**TAXI DIRECTORY**

- Chinatown (Yawara & Ratchawong Intersection)
- เยาวราช ยาวาราจวงท์
- Don Muang Airport
- ท่าอากาศยานดอนเมือง
- Dusit Zoo สวนสัตว์ดุสิต
- Emerald Buddha, Grand Palace
- วัดพระแก้ว
- Gaysorn Area บริเวณถนนเกษร
- Giant Swing เสวชิงชว
- Golden Mount ภูเขาทอง
- Jim Thompson's House บ้านไทย ของ มิสเตอร์ ทอมป์สัน สุริวงค์
- Lumpini Stadium เวทีลุมพิน
- Marble Monastery วัดเขษุมณเตร
- วัดเขษุมณเตร
- National Museum พิพิธภัณฑ์สถานแห่งชาติ
- Oriental Avenue ตรอกโอเรียนเต็ล
- Patpong Road ถนนพหลโยธิน
- Ploenchit พลันจิต
- Rajdamnern Stadium สนามมวยราชดำเนิน
- Reclining Buddha พระนอนวัดโพธิ์
- Siam Theater (opposite Siam Intercontinental Hotel) โรงหนังสยาม
- ศรีสยามโรงแรมสยามอินเตอร์คอนติเนนตัล
- Snake Farm สถานเสาวภา (สถานีรถไฟหัวข้ง)
- Solid Gold Buddha พระพุทธรูปทองคำ วัดไตรมิตร
- Standing Buddha หลวงพ่อโต วัดอินทรวิหาร
- Sukumvit สุขุมวิท
- Thieves' Market (Yawara & New Road Intersection) เวียงนครเกษม
- Timland ทิมแลนด์
- Weekend Market ตลาดนัดสนามหลวง

SEE OTHER SIDE FOR CONTINUATION SHOWING THE FLOATING MARKET





LIB